

高収益な農業に取り組む現場から学ぶ
— 土地改良事業の実施地区から —

平成28年12月
農林水産省

取組事例集 目次

主な作物	地域名	地区名	事例	頁	取組の工夫			
					体制・人材づくり	栽培作物・方法	加工・出荷	販売
野菜	北海道洞爺湖町	大原	「クリーン農業」の実践を通じた農産物のブランド化	1		○	○	○
	北海道共和町	発足・発足2期	「メロン」・「スイカ」の長期安定出荷とブランド力の向上	2		○	○	○
	岩手県奥州市	上小田代	魅力ある里づくりを支える新たな地域産品(トマト)の生産	3	○	○	○	○
	秋田県大仙市	中仙中央	園芸農業への転換を通じたコメ依存の経営からの脱却	4	○	○	○	
	茨城県坂東市	寺久・三	安定的な経営の実現に向けた販路拡大への挑戦	5	○	○		○
	千葉県銚子市	東総Ⅲ期	安定した水供給と畑地かんがいでの「灯台印」キャベツの安定生産	6		○	○	
	静岡県森町	森町とうもろこしの里	水田3倍活用と行列ができるとうもろこしによる稼げる農業	7	○	○		○
	石川県金沢市	粟五・粟五2期	加工・流通体制の強化による「五郎島金時」ブランドの形成	8	○	○	○	○
	滋賀県近江八幡市	大中の湖	「大中すいか」の直売による高収益農業の実践	9	○	○		○
	京都府亀岡市	亀岡	水田の活用により「京都大納言小豆」の更なる生産拡大へ	10	○	○	○	○
	徳島県阿波市	吉野川北岸	若手農業者が先導する新規作物の導入と産地づくり	11	○	○		○
	長崎県諫早市	飯盛	「いさはやポテト元気くん」の産地強化と低コスト化の推進	12	○	○	○	○
大分県竹田市	荻	畑地かんがいによる「赤採りトマト」の産地ブランド化	13	○	○	○	○	
鹿児島県西之表市	現和	「ばれいしょ」からより収益性の高い「安納芋」等へ営農転換	14		○	○	○	

水田3倍活用と行列ができるとうもろこしによる稼げる農業

もりまち
【静岡県森町】

体制・人材
づくり
栽培作物
・方法
加工・出荷
販売

【工夫のポイント】

- 基盤整備を順次実施し、年間で**水稲、レタス、とうもろこしの3品目を作付ける「水田3倍活用」を実践**。
- 糖度が高く、高品質なとうもろこしは、**直売所で消費者へ直接販売**することによって流通経費を削減し、収益性の向上を図る。
- 地域の**若手農業者によるブランド力向上に向けた活動組織の設立**。

整備効果を最大限に活かし水田を3倍活用

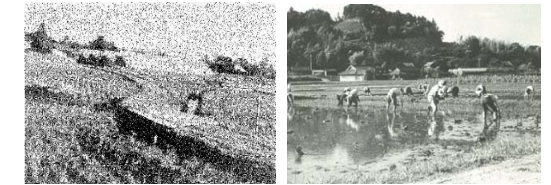
- 区画整理や用排水施設の整備、暗渠排水の整備等を順次実施し、営農労力の削減を図るとともに、**水稲に加えてレタス、とうもろこしを導入**。年間で3品目を作付ける「**水田の3倍活用**」を実現。



基盤整備
(S39年～S47年)
(H25年～)
(県営農地整備事業)

【整備前】

扇状地に広がる水田単作地帯であり、**区画は不整形で、用水不足や排水不良に悩まされ、不安定な農業経営**を余儀なくされていた。



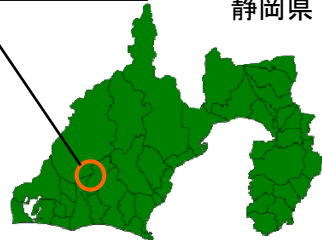
【取組地域の概要】

○位置 静岡県周智郡森町

もりまち さと
森町とうもろこしの里地区

静岡県

- 主要作物
- ・ 水稲
 - ・ レタス
 - ・ とうもろこし



○主な支援施策

- ・ 県営かんがい排水事業 (S39～S47)
- ・ 県営ほ場整備事業 (S41～S52)
- ・ 排水対策特別事業 (S54～H7)
- ・ 県営土地改良総合整備事業 (H2～H12)
- ・ 基幹水利施設補修事業 (H7～H17)
- ・ 地域水田農業支援緊急整備 (H18～H22)
- ・ 県営農地整備事業 (経営体育成型) (H25～H29)

生産現場

地下水水位制御システムの導入による高品質化

- **地下水水位制御システムの導入**により作物の収量の増加、高品質化を促進
- **耕畜連携による資源の循環利用** (WCS→畜産農家→堆肥→農地還元)にも取り組む。



加工・流通

とうもろこしの直接販売を通じた収益性向上

- とうもろこしは農家が直売所で販売。**流通経費の削減及び現金収入による農家の収益性向上とともに、地域の雇用を創出**。行列ができるほど地域での評価は高く、「甘々娘」や「甘太郎」などの地域ブランドを確立。



担い手

若手農業後継者によるブランド力向上の取組



- 地区内の**若手後継者(40歳以下)14名がグループを結成**し、ブランド力向上を図るために独自の研修会を実施。また、地域の小学生向けの農業体験も開催。

水田3倍活用やとうもろこし直売の取組により、販売額の向上を実現

- 取組は、**地域内での成功例の横展開を図ること**で徐々に普及。現在では地域内の21の経営体で「水田3倍活用」に取り組み、「周智レタス」、森のとうもろこし「甘々娘」、「甘太郎」**ブランドの確立やとうもろこし直売により、販売額が向上**。

農業法人Aにおける経営規模の推移

